

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1093100129		
法人名	特定非営利活動法人きずな		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホームめいわ		
所在地	〒370-0708 群馬県邑楽郡明和町新里352番地		
自己評価作成日	平成26年10月14日(火)	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

主役は利用者である。尊厳を守る。大きな声を出さない。穏やかに話す。当たり前のことを実行して利用者の笑顔が見られる。一人一人のペースに合わせる、また「待つ」支援をしていく。嫌なことはいない。やりたいことをする。自由に過ごして欲しい。静かで家庭的な環境があるホームを目指しています。現状の能力が低下しないように、毎日の掃除、1日2回の運動、毎日しています。季節の野菜を近隣の方々が届けてくださいます。その野菜を調理しています、懐かしいおかずが出てきます。地域のボランティアの演劇・オカリナ・フラダンス等の方々と手作りおやつを食べながらの談話を楽しくて関わりを深めています。運動会に遊びに行ったり、老人センターへ行ったり、近隣の散歩も続けて行こうと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「当たり前のこと」を当たり前に提供すること、笑顔が円滑な人間関係形成の基礎である、これらを大切にしており、職員の利用者への対応に、その実践を垣間見ることができる。「その人らしく」「それぞれの入居者の思い」「地域密着型サービスであることの理解」「理念に基づく関わりを大切にしていく」ことを、職員間で共通認識して、日々のケアに取り組んでいる。開設後まだ1年経過していないなかで、これからソフト面において新たな取組みに挑戦しようとしている段階であるとともに、好ましい取組みを吸収しようとする意欲を管理者と職員が有している。先進的で新たな取組みについて具現化されることが期待されるが、それを後押しするように、周辺環境は町の中心部ということもあり、活用し得る社会資源が点在する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに支援するようにしている。	開設当初、理事長と管理者が相談のうえ、一人ひとりを大切に、その人らしさを支援することを理念とした。朝の申し送り時、会議時に、実践を通じて「その人らしさ」とは何か職員へ投げかけることで、理念について振り返る機会を作っている。	地域密着型サービスであることの意義を職員間で確認するとともに、それを理念として明文化し、共有する機会の創出を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの近隣の散歩・近くの老人ホームに行き楽しむなど交流をする。	近隣の老人福祉センターでの活動参加、活動に参加している地域の友人に会う機会とするなど、近隣にある社会資源を有効活用して地域との接点としている。地域のボランティア(フラダンスやオカリナ演奏)と交流を図ったり、近隣住民が野菜を持ってきてくれるなど、日常的に顔の見える関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの人がいつでも来られ、会話の中で困っていることなどの相談に受けられるような場所に出来たらいいなと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の増減や行われたことの報告、また口腔ケアの大切さをセミナーを行い勉強の機会を作ったりした。評価や意見に沿えるようにしている。	併設の小規模多機能型居宅介護事業所とともに2ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。利用者状況やその生活状況、イベント等報告が主たる議題となっており、参加者に事業をより知ってもらうために、同日に「口腔ケア研修」や「そば打ち(利用者とともに)」など行事や研修を開催するなど、工夫を重ねている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームでの問題について、相談をしたりしています。	利用者の生活の質向上、また権利擁護に向けた取り組み、サービス提供の在り方についての相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアや玄関の施錠しないなど実践している。	身体拘束を禁止している。徘徊傾向のある利用者へは、一緒についていく、また話を聞いて帰宅に固執した考え方を他に向ける等、真の訴えを捉えることを職員間で共通の対応として実践している。一方で「拘束」に対する職員間の共通認識を図るための研修はこれまでは実施しておらず、今後実施予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設けてさらに話し合っていき虐待が見過ごされないように注意し防止します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を利用している利用者がいます。、職員にも学ぶ機会を設けて話し合い活用できるようにしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約の締結に説明していますが、不安や疑問点などはその都度、尋ねてくださいます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪時に要望をお聞きするようになっている、また運営推進会議に出席されている方からも意見を頂き運営に反映している。家族会を設ける。(往診の件・職員の件など)	事業所を訪ねてくる家族から、職員の顔と名前が一致しないとの訴えがあり、それを受けて職員の顔写真を玄関内の分かりやすいところに掲示している。その他、家族の要望を受け、診察を往診に変更するなど、主として家族訪問時に要望を受けている。今後、より率直な運営に向けた意見検討の場として家族会や、無記名での要望や苦情を受けつける機会を設置したい意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見が文句になってしまう傾向がある。申し送りの時に機会あり、運営に関する意見や提案は取り込むようにしている。	申し送り時、また管理者への個別的な申し出(訴え)を意見表出の機会としている。トイレ誘導の頻度等ケアの在り方についての要望・提案は皆で検討し、その提案を改善の機会に捉えている。休暇希望や人間関係に起因する相談には、個別に対応し、可能な限り本人の考えを尊重している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況を把握している。やりがいなどの向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備の努めます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てるように法人内外の研修を受けられる機会の確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流する機会作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問によりサービスの質の向上を図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時は生活環境の変化に戸惑いや落ち着かなく不安になっている、話を良く聴き安心して頂く様に努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	介護保険法制度利用について出来る限りの情報を、提供し、利用者や家族にとって納得できるようなサービスが利用できるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に乗る上で、その人が必要としているサービスが別のものであれば、その人が求めるサービスの紹介も行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に暮らす一員とし喜びや感動を共有し、笑いの声が響く様に心得ている。信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪時は、一緒に談話できる環境を提供し、日頃の様子を話し共有する。利用者さんのケアについても相談している。いらしたことにしてお礼を伝える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や外泊、馴染みの人の訪問は自由にして頂き、協力できるところは協力して、世間が狭くならないように支援している。	これまでの関係と経験を尊重することの大切さを理解しており、事業所を訪ねてくる友人と利用者とはゆっくりと話ができるよう環境を整えたり、馴染みの理美容を引き続き利用できるよう家族や美容室と協力したりするなど、実践に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せずに、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援が出来るように、職員がうまくクッションになり利用者の関係がスムーズになるように支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	持病の悪化等での入院し、退去になっても見舞いなどで本人または家族との関係を持ち、サポートして行けたらと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らし方、希望や意向を把握し、希望に合うように努力している。困難な場合は議題として考えてみる。	現在は言語的な働きかけに対して応答できる方が多いため、声かけや問いかけを通じて意向を把握するよう心がけている。一方で、表出しにくい感情や思いの把握のために、個々の特質や利用者間の人間関係についてアセスメントを行い、個人や状況に適した声かけを行う努力をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過を把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態の把握し、一人ひとりの環境を壊さないように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアが出てくるようなミーティングを行い介護計画を作成したい。	日々介護に関わっている各職員の意見を、介護リーダーが集約し、計画作成へ情報提供している。家族への説明・承諾、また情報収集は、電話や面会時に計画作成者によって行われている。家族から要望のある、利用者のストレンクス(強さ・強み:潜在能力・環境)を活かした活動について、今後、計画に取り入れたいと考えている。	計画の立案から実施、モニタリングにあたって、関わる家族や職員が情報を共有し、チームとして個々の計画に携われるような仕組みと書式づくりに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個別記録に記入するところが不足している。職員間で情報を共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズの対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源との協働の把握し、近くの老人センターへ行き地域の人達と楽しんだり、ボランティアの受入をし、一緒に歌唱したりおやつを食べたり楽しい時間を共有している。運動会や産業会にも出掛けて行きます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医に受診し、受診時に付添したり、情報の提供や相談したりしている。適切な医療が受ける様に支援している。	利用者や家族が希望している医療の提供と体制づくりを行っている。結果的に協力医が中心となった受診支援となっている。精神科等専門医の受診は、個別的な対応を行っている。家族から依頼があった場合には、通院対応を行っており、報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師に相談したりしている。何かの時は通院の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医の指示により、通院入院手続きを家族と相談連絡しながら進めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業者で出来ることを提供し、かかりつけ医の指示があれば対応していきます。地域の関係者と共にチームで支援していきます。	現段階では、食事摂取が不可能である場合は退居、かかりつけ医の医療提供の対応は対応可、といえるが、明確な取り決めはなく、今後、医療体制の構築とともに職員相互で方針を具体化、明文化していき、本人を含め、家族と主治医、職員の理解を得ていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に普通救急救命講習を受け、初期対応を速やかにできるように努めます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練が全職員が身につけるよう努めます。地域の協力体制を築く。	年に2回の避難訓練(うち1回は夜間想定)を実施予定であり、すでに1回目を終えている。災害時の職員マニュアルを作成している。管理者は、災害時における地域住民の協力体制づくりの必要性について理解しており、次回の避難訓練に地域住民を招き、協力体制の構築を目指していきたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせたケアに努め、個人情報扱いには注意をしています。日常生活でのケアでは尊厳を守るようしています。言葉にも注意しています。	利用者には「〇〇さん」と呼び、言葉(大きさや言い回し等)の使い方、やさしいおだやかな口調での声かけに、職員間相互で注意を払うように心がけている。今後、プライバシーに関わる場面、特に排泄場面での介護(見守り)の在り方について、改善を試みたいと考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような話し方(選ぶ・待つ)や働きかけを行い、本人の希望に応えられるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の一人ひとりの体調や精神状態に合わせて、起床時間や入浴やレクリエーションなどを希望により支援するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容サービスを利用している方や家族が美容室に連れて行く方や美容室が迎えに来られる方やさまざまに対応しておしゃれしています。季節に合った衣類も家族にお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しめるように好き嫌いを把握している。食事の準備や片づけを毎日利用者さんと職員と一緒にしている。利用者さんが出来ることを増やすようにしている。	利用者の食事に関する好みを参考のうえ、1週間分の献立について栄養士を交えて作成している。利用者は、皮むきや食器拭き・下膳・「いただきます」の号令など、それぞれ活躍できる場面で力を発揮している。食事中は、入居者の希望があり、好きな歌手の曲が流れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量(一人ひとり量が違う)・水分量は個人記録にて確認できるようになっている。体調不良時は食事形態の変更もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人状況により対応している。自立で出来る方、介助が必要な方、声掛けが必要な方等。入歯の洗浄は介助です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗やおむつの使用を減らすように、一人ひとり対応している。時間を決めて声掛けしトイレに誘導したり促したり自立にむけた支援をしている。	おむつの時間間隔を短くする、声かけは多くなるが、無理強いをしないよう誘導回数を増やす等、個人の排泄パターンを把握し、パットの量を減らせるよう、個別的なトイレ誘導を行っている。自立されている方もおり、能力に応じた個別支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維のある食物を食事に出す工夫をしたり水分は牛乳を使ったコーヒーやココアにしたり入浴後にミルクを出したりしている。運動もするようにしている。低脂肪のミルクを使用。薬は出来るだけ使用しない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員が不足のため時間や曜日は決めている。個々に沿った支援が出来るように努める。体調の変化により随時変更あり。	入浴日を決めてはいるものの、希望があれば別の日に入浴することも可能である。浴室は広くゆったりとしており、見守りをし、一人ずつゆっくりと入浴してもらうことを心がけている。入浴剤やゆずを用いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼は寝ないで活動するように支援している。その方が夜間が良く眠れる。体調により自由にして頂く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医の処方箋による服薬が主であり、担当医の指示に従い服薬支援をしています。薬の管理は職員。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の掃除、洗濯のたため、食事準備・片づけ、など生活の中で役割が出来ている。買い物にも職員と一緒にいき、また外出、ボランティアの来訪などで、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩は天気の良い日は出掛けたい。本人の希望を家族や地域の人々と協力しながら出掛ける様に支援したい。時々全員でドライブに行く。	日用品などを中心とした利用者個々の買い物を支援している。概ね一人につき週に1回、個別的に買い物に出かけている。日常的には近所への散歩(天候を考慮したうえで)を行っている。その他、花見(桜、菖蒲)やドライブ、観音見物など定期的実施している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より預かっているのはオムツを購入したりしている。本人が希望に応じて財布を持ち使えるように支援している。自分で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、電話を使用できる機会も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によって居心地の良い空間が違う、共用空間については、特に音については気を使い、食事時に音楽を流し環境に配慮をしている。また季節の花(家族からの差し入れ)を置き季節感を出している。	共用の居間には、テレビや応接セット、畳のコーナーにより、利用者は思い思いに過ごされている。日当たりのよい廊下の突きあたりにも椅子が用意されており、くつろぐ利用者の様子が見られた。壁面には、職員と利用者の協働による季節毎の貼り絵の作品や利用者の折り紙の作品が適度に飾られ、明るく居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子を置き一人になりたい時に自由に移動して座っていることも可能である。ソファのところで気の合った同士で会話してもいいし、テレビ見てもいいし、居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を置いたり自分の布団や枕を持参してもらい使用している。	各居室には、馴染みの家財やテレビ、座卓、家族の写真、敷物等が自由に設置され、本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー仕様となっている。トイレ・浴室・各居室・食堂・台所など名前がついており、わかり易くなっている。安全・安心の環境づくりに努めている。		